

# 諦 崇 寺 報

諦 崇 寺 発 行  
 藤 井 崇 文 編 集  
 〒631-0065  
 奈 良 市 鳥 見 町  
 2丁 目 28-10  
 0742 (37) 2569  
 taisouji.jp



## 仏さまの生活

私が福井県・永平寺に安居していた話をすると、お檀家さんの多くが「厳しい修行をされたんですね。私にしろも真似出来ません。」と仰ります。それに対して私が「いえ、永平寺の修行は誰でも出来るんです。」と申しますと、「そんな謙遜を。」と笑われます。ところが「永平寺の修行は誰でも出来る。」は本当なのです。永平寺の修行もそうですが、仏道を行っているのは大変な困難です。仏道を行ってみたい、独りぼっちではなく、周りに仲間がいて老僧方がおられて始めて永平寺の生活は可能になります。開き直る訳ではありませんが、私はかなりせつかついで、おっちょこちょいな性格です。そんな私が出来たのですから、永平寺の生活は特別な者にしか送れないという事は絶対ありません。誰でも仏道を行える事が出来るのです。

そうは言ってもやはり「修行」という言葉からは「ただただ、何か難しいもの」と感じられる方も多いでしょうから私は「仏さまの生活」と言い換えた。現代の私たちが正しく伝わるものではないかと思っています。

私たちの日々の暮らしを見つめる。その穏やかで優しい眼差しが仏さまの教えですから、私たちの生活から離れての仏教は多岐多岐です。だから「仏さまの修行」が「仏さまの生活」であるのは当然と言えは当然です。

禪宗の寺院では、主なお堂や場所を七堂伽藍と呼びます。その七つとは、①お寺の玄関である山門、②本尊さまをお祀りする仏殿、③住持が法を説く法堂、④食事を作る庫裏、⑤坐禅・食事・睡眠を修行する僧堂、⑥浴室、⑦東司(トイレ)です。これは、このご家庭にもある場所やお部屋とはほとんど同じです。仏殿と法堂は規模の大きいお寺でないと同じお堂である場合が多いので、ご家庭ではお仏壇のある部屋と考え頂いて差し支えありません。

「仏さまの生活」を送る場所が仏道修行の場であって、お寺だけが「仏さまの生活」を送る場所ではない、ご家庭であれ何処であれ、生活を送る場所であれば「仏さまのお姿」になっていく修行の場所であり手です。

仏さまは説経されていたから「仏さま」なのではありません。また、仏さまは坐禅されていたから「仏さま」なのでもありません。仏さまは日々をお過ごしになられるどの瞬間を切り取っても仏さまのお姿であられるから「仏さま」なのです。

それでは、どうすれば私たちが「仏さま」のお姿「成って」、仏さまの生活を送る事が出来るのでしょうか。どうも僧さま、ごっこで少く考えてみて下さい。

どの様に飯を食うたら仏さまのお姿であるか。どの様におトイレを使えば仏さまのお姿であるか。どの様にお風呂に入れば仏さまのお姿であるか...

そうすると、私たちがどの様にすれば仏さまのお姿になれるのか、既に知っていたとお気づき頂けるのではないのでしょうか。

「仏教は分かりませぬ。」と仰る方も本当は「どの様に過ごせば仏さまのお姿であるか」を存じなさい。

それなのに「どうすれば仏さまのお姿と成れるかなんて、とても分かりませぬ。」と仰られる方がおられます。どうしてでしょうか。例えば、親が子どもに「片付けしなさいよ。分かった?」と聞かしても子どもはなかなか「分かった。」と返事をしません。「片付けをする」という言葉の意味が分からない訳ではありません。それなのに何故「分かった。」と返事をしないかと言うと、ひとたび「分かった。」と言ってしまえば「自分自身が行動を起こさなければならぬ責任を自覚した」と自分にも周りにも明らかとなってしまうからです。

言葉の意味が「分からぬ」のではなく、自覚して実践していかず事を躊躇して居るだけなのです。

仏道を行っていると、何も朝から晩まで坐禅や説経をする事ではありません。反対に、坐禅や説経だけすれば仏道を行っている訳でもありません。私たちは極端や極論を持ち出して、「そんなのは無理。自分出来る訳が無い。」と自ら行動するのをあきらめず、そしてあきらめず絶対に行きます。そしてあきらめず絶対に行きます。

仏教はお坊さんだけのものでも、お寺だけのものでもありません。仏教は私たち各々の身体と心を見つめる教えであり、各人それぞれが生活を送ってゆく道です。

「他者に任せたまの生活、他者に任せたまの自分」にならず、私たちが自身の「仏さまの生活」を送りたいものであります。

仏さまの先祖さまに真の直ぐに手を合わせて、是非とも素直なお気持ちで、心よの真の直ぐに「分かって頂きたい」とお祈りして下さいます。仏さまの生活を送るのうっかりとお動かしです。「とお祈りして頂くと、それは先近かれた方へ一番の供養であり、仏道修行のはじめです。」

あとがき

平成二十六年五月、大阪市東区・竜光寺さまにて、大変に稀な仏教行事「お授戒会」が厳修されました。

お授戒会は、お檀家さまに菩薩さまとしての戒をお授けして、菩薩さまとしてのお名前「ご戒名」をお授けして、菩薩さまと成られた証に本堂のお壇「須弥壇」に上がって頂く行事です。



栗東寺住職はお檀家さまに戒をお授けする戒師を勤め、私は説戒師というお役を頂戴して、核となる法要である「懺悔道場」「教授道場」「正授道場」の三つを説明を致しました。

「懺悔道場」とは、仏さま、ご先祖さま、父母の恩に報いて下さる私たちがどうかかをよへよく考えて、小さな罪に至っては無量に沢山あったのではないだろうか(小罪無量)と気付いてゆくお勤めです。

「教授道場」「正授道場」とは、懺悔を済ませた私たちは、菩薩さまとしてのお誓い「十六条の戒」を学び、またそれを後世に伝えてゆく、みんな仏さまと成ってゆくという決心するお勤めです。

「説戒師」はあまりに荷が重なお役目、腰が折れそうでしたが、何とか勤めました。拙「チオをニューチューブ」に掲載しています。

三月に発行予定の今号が延びていましたが、年二回の発行が目標なので、次号と同時発行です!